

知っていますか？子宮頸がんのこと

子宮頸がんについて

日本でも年間約1.1万人が罹患し、約2,900人が命を落としています。25歳～40歳までの女性のがんによる死亡原因の第2位になっています。ほとんどの子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因です。

HPVは女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれており、ほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

子宮頸がんを苦しめないためにもHPVワクチンでHPVの感染を予防するとともに、20歳になったら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

ポイント①

HPVワクチンで
HPVの感染を予防



ポイント②

子宮頸がん検診で
がんを早く見つけて治療

01 HPVワクチン

ワクチンは3種類あります。医療機関に連絡し、どのワクチンにするかで相談ください。

- ・ **サーバリックス(2価)** …子宮頸がんの主な原因となるウイルス16型・18型を予防します。
- ・ **ガーダシル(4価)** …サーバリックス(2価)に加え、尖圭コンジローマの原因の6型・11型も予防します。
- ・ **シルガード(9価)** …令和5年度から定期接種化。9つのウイルスの型に対応しています。

※ワクチンで防げないHPV感染もあるため、併せてがん検診を受診しましょう。



詳しくは→



一般的な接種スケジュール

シルガード® 9

1回目の接種を
15歳になるまでに
受ける場合

0か月
1回目

6か月
2回目

合計
2回

1回目の接種を
15歳になってから
受ける場合

0か月
1回目

2か月
2回目

6か月
3回目

合計
3回

ガーダ
シル®

0か月

1回目

2か月

2回目

6か月

3回目

サーバ
リックス®

0か月

1回目

1か月

2回目

6か月

3回目

令和5年度HPVワクチン対象者 ※対象の方には5月に個別通知しています。

定期接種

小学校6年生（平成23年度生まれ）～高校1年生相当（平成19年度生まれ）の女子

キャッチアップ接種（積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方）

高校2年生相当（平成18年度生まれ）～26歳になる女性（平成9年度生まれ）で、過去HPVワクチンの接種を合計3回受